

令和6年度 第1回 始良市地域自立支援協議会 議事録

- 日 時： 令和6年7月30日（火） 午前10時00分から午後12時00分まで
- 場 所： 始良市役所2号館3階第1～第3委員会室
- 出席者： 始良市地域自立支援協議会委員
出席委員数 15人
傍聴者 0人
事務局及び関係職員

議事の経過の要領及びその結果

	1 開会
	○会議の成立について 委員18人のうち15人が出席。欠席は3人。過半数が出席しているため、始良市地域自立支援協議会要綱第6条第2項により会議が成立する旨を事務局より報告。
	2 委嘱状交付
	代表の委員に対し、委嘱状を交付。
	3 副市長あいさつ
	4 委員紹介
	5 事務局紹介
	6 会長選出
	事務局一任
	事務局一任とのことで、事務局としては、樋之口委員を会長に推薦したい。よいか。
	異議なし
	7 会長あいさつ
会長	これから3年間の任期を会長として務めさせていただく。 日頃は、重富の地域のほうで、委員の事務局の近くになるが、そちらで精神障害を抱える方の地域移行支援、そして日中の居場所、相談支援となる場所を運営している。特に、最近では精神科病院からの早期の地域移行が望まれるということで、それをメインの業務として、携わらせていただいているところ。 ご推薦頂いたが、前会長の委員の後任という形になるので、正直荷が重いと感じるところは少しある。しかし、与えられた、任されたところなので、精いっぱいさせていただきますと思う。未熟なところがあるかと思う。ご指導頂きながら、この会もスムーズに進行できるように協力をお願いします。
	8 議事
会長	○議事録署名委員の指名

	会長が、議事録署名人として2人を指名。委員の了承を得る。
	(1) 始良市地域自立支援協議会及び同専門部会について 資料1 の説明
	事務局が説明。質問・意見は以下のとおり。
会長	本日配付だったこともあってまだ読み込めていない部分あるかもしれないが、この段階で質問、確認はないか。 各部会においては、部会の下にワーキンググループというものがあったり、今年度、令和6年度の開催予定が示されている。 後ほど各専門部会の報告も頂くので、ご質問ご確認あればよろしく願います。
	委員より意見等なし。
	(2) 地域生活支援拠点等について 資料2 の説明
	事務局が説明。質問・意見は以下のとおり。
委員	うちも登録はさせていただいているが、利用者は登録制とお聞きしている。どの辺まで、広報とかそういった話が進んでいるのか。
事務局	現在始良市内の相談と短期入所と、登録を複数か所ずつ頂いている。ただ、まだ実行には移っていない。 まずは整備ということで登録から頂いているのが、今の状況となっている。
会長	今の運用としてはまだ1件も実績はないが、今は整備を進めているというところ。 今の説明でよろしいか。
委員	よい。
会長	ほかにご質問、ご意見あるか。
委員	14 ページの対象者の項目になると思うが、サービスを使ってないという、何か制限が対象者の中に含まれたりするか。
会長	資料の14 ページで、要綱12条の対象者のことか。 障害福祉サービスの支給決定を受けている者を含むということも、そこがポイントか。実際どういう人が対象になりうるかという趣旨のご質問か。 事務局より願います。
事務局	12条の部分に一時保護事業が入っていることもあり、今の拠点の部分と、整理がうまくできてない部分がある。 この拠点について、今うまく回答ができないので、整理をしてから、各委員の皆様にご報告という形でもよろしいか。
会長	一旦ちょっと持ち帰りとさせていただいて、後日委員に通知を出すということでもよろしいか。
委員	よい。
会長	整備をしつつ、対象者が誰かというところについても議論が必要というところになってきている。 たまたま今回申請されている事業所だが、委員からよろしいか。 緊急時受入れというと、今対象者の話も少しあったが、懸念というところもあったりしないか。

委員	<p>今回、地域生活支援拠点の参入というか、そういったところでいくと、やはり我々の法人としては、地域福祉の向上にというところで、今回登録をすることで話が進んでいった。</p> <p>今この資料にある中で、10 ページの主たる対象者というところだが、今短期入所における部分で障害児には○をつけてないが、今回この地域生活支援拠点への参入に合わせて、運営規程の変更をし、県から運営規程の承諾を受けているところ。</p> <p>そこで、障害児も含めて対応できるような形というものを整備しようということで進んでいるところである。</p>
会長	協議会として資料2のとおり、申請事業所の登録を認める方向でよいか。
	了承の声あり。
	<p>(3) 各専門部から</p> <p>ア 相談支援部会</p> <p>イ 子ども部会</p> <p>ウ 就労支援部会</p> <p>エ 精神保健福祉部会</p>
	各部会（相談支援部会、子ども部会、就労支援部会、精神保健福祉部会）より報告。
会長	<p>この報告書の記載自体も大変苦労があったかと思う。各部会で既に活発に議論されているが、進んでいくとやはり困り感に当たってしまうというところも報告の中にもいろいろあったかと思う。</p> <p>ただ、今年度の特徴に関して、キーワードとしては、ほかの部会とのコラボレーション、というところだと思う。</p> <p>その中で接点をどう議論していくのか、どう仕組みづくりをしていくのかというところが一つポイントであったと思う。</p> <p>ではここからはご質問ご意見あったら教えていただきたい。</p>
委員	<p>子ども部会についての意見を1つ言わせていただく。</p> <p>報告によると、療育を利用している、不登校や発達障害のお子さんたちに対する取組も一新されているし、子育て支援拠点施設「ちるどん」というのができたということも大変よかったと思う。</p> <p>要望としては、部会長は今年1年目なのであんまり宿題をたくさん出すと潰れるので、これで今回はこれでいいが、余裕が出てきたら、医療機関と福祉機関、教育・福祉・医療との連携というのを進めていただければと思う。</p> <p>部会長は小学校の校長の経験もあって教育も、特別支援も勉強しているので、ぜひ、医療的なケアのところは医療、福祉、だけじゃなくて教育機関との連携を進めていただきたい。</p> <p>もう1つは就労支援部会について。統合失調症とか鬱病とか、または知的障害とか、肢体不自由とか、はっきりそういう診断を受けた人はそれなりの就労支援の対策はとりやすいが、ちょうど間にある人、例えば、双極性の障害のある人、こういう人は自分が障害を持つ人間なのかそうでないのかっていうのが自分でも決めきれなくて、就労支援の門をたたくのがすごい抵抗がある。</p> <p>就労支援A型B型に入ってもらえるのも一つの方法だが、相談を受けて、こういう就</p>

	<p>労の在り方もあるというアドバイスを頂けたら、間にある人たちの対応ができると思う。</p> <p>双極性の躁鬱の人を1人担当しているが、1年間は家にひきこもっていた。でも本人も40代男性だが、やっぱり缶ビールを飲みたいし、たばこを吸いたいので、それを親からもらうのは、抵抗がある。ちょうどボーダーラインで障害年金はもらえなかった。</p> <p>自分のお金で、たばこも、ビールを飲みたいということで今、週3回午前中だけ、掃除のアルバイトを見つけている。</p> <p>あとはスポーツマンなので水泳をしたり、走ったり運動はしている。私がアドバイスしたのもあるし、ハローワークが紹介したのもあるが、午前中、週に3回だけでも一定の収入があるし生活のリズムもできるので、非常にいいかなと。</p> <p>ちょうど間にある人たちへの対応をよろしく願いたい。</p>
会長	<p>1つ目、子ども部会へのご意見というところだが、先ほど委員からも子どもさんの入院というところにもしかして通ずるところかなと思うが、委員から願います。</p>
委員	<p>19ページの課題の中にも医療的ケア児の入所のこと載せてあったが、本部会の中でも医療的ケア児のワーキンググループがある。その中で、医療と療育の連携というのはすごく今から大きな課題になってくると思うので、詰めていきたいと考えているところである。</p>
会長	<p>続きまして就労支援部会へのご意見があったが、病気の間にある、あとは受容も絡むところではあるが、それについての対応は委員いかがか。</p>
委員	<p>部会として、そのような案件にどう入っていくかは、ちょっと考えるところがある。関連するとすれば、ハローワークだったりにはなってくるという気がしている。そして、社会資源を知っていくところでは、今度は相談支援部会と就労との兼ね合いになってくる。</p> <p>また、福祉サービスの受給決定があれば、サービスを受けることができる仕組みにはなっているので、本人との折り合いというのが、肝になってくるところである。</p> <p>やはり抵抗があるのであれば、障害福祉サービスというところには進んでこないし、一般就労っていうところで、そのままずっと続けていけるかどうかっていうところにおいても、やはりその実績っていうものがあって、そしてその実績をもとにという形に、なっていくという気はしたところだった。</p> <p>ハローワーク、なかぼつ、相談支援とともにしっかりと考えていけるといいと思った。</p>
会長	<p>ほかの委員から質問・意見あるか。</p>
委員	<p>委員にお尋ねしたい。</p> <p>精神科と身体科をつなぐということがよく理解できないので教えていただきたい。</p> <p>あと子どもさんが今、入所される方が増えているということを言われたように思うが、この原因とかは何か思い当たることはあるか。</p>
委員	<p>精神科と身体科について、私、3年前まで始良病院に行ってまた戻ってきたが、精神疾患だけではない患者さんというのが精神科の病棟の中、外来患者さんにも増えてきていると思うところ。それは高齢者に限らない。</p> <p>若い患者さんでも同じと思うが、精神科は身体科については疎いところがある。</p>

	<p>専門的な治療については身体科でなければ分からない部分、例を言えば、何か出血があるみたいけど、どこから来ているんだろうかということ、病院だからできると思うかもしれないが、実は専門の先生がいないからできない。</p> <p>逆に身体科から見ると精神的にこの人、大声出したりするし、変な行動もあるし、何だろう、もう私たちでは対応できないっていうような方がいたときに、原因が身体科では分からない。</p> <p>お互いに何か不足している部分を持っているところがあるので、そこを補填しながら、精神的にも病気はあるし身体的にも病気があるけど、どこで最優先して治療すべきかというところを考えながら、もしかしたら身体科行ったり、精神科行ったりするような患者がいるというところで、共通した理解が必要になってくる。</p> <p>連携という簡単な言葉で済ませたが、1人の患者さんの中にそれだけいろんな課題を抱えている人が増えているというところで、より密な情報というものが必要になってきているのが現状だと思う。</p> <p>もう1つの質問だが、子どもの入院が増えてきていることも、当院でも本当に小学生とかまだ10歳にも満たないぐらいのお子さんたちが通院したり入院したりとかも珍しくない現状になってきた。</p> <p>それがいろんな場面で、発達障害であったり、発達のつまずきだったりというのに気づく場面も増えてきていると思うのと、医療機関につなぐとか行くことに抵抗がなくなってきている。</p> <p>入院までしなきゃいけないお子さんというの中にはいるので、暴力行為があるとか自傷行為があるとか、どうしても、治療もあわせ持って対応が必要になるというようなお子さんたちも増えてきている。</p> <p>なので、入院したから治るということではなく、そういった行動とかがすごく困っていることに対して、お薬で、抑えることができる部分もあるが、そうしながら、学校でどうするのか、家庭でどうするのかというようなことを一緒に考えていける、そういった機会もすごく増えてきていると思う。</p> <p>学校の方が病院に来て、一緒に話をするとか児相の方が来るとか、みんなで地域の役場の方だっている方も来てっていうような、支援者も来て、児童の相談支援事業所の方も来てとか、本当にいろんな方に集まってもらって、1回22、3人ぐらい集まるような会議っていうのが割と頻回に、うちでも行われてきているところ。</p> <p>入院することが悪いのかといたらそうではなくて、ある資源というのを使ってもらって、精神的な不調というのも一つの治療できるものであれば、相談できるものであればということで、精神科を利用していただくというのは、いいことなのではないか。医学的な部分で、ご理解頂けたりとか、何か今後の対応っていう対応策の中で少しでも、お役に立てるのであれば利用していただくということはいいいのかなと思っている。</p> <p>そういった相談があったときには、連携したりということは、検討していくようにする。</p>
会長	やはり最近の環境とかそういうのが子どもたちにも影響していると思う。 委員、どうぞ。
委員	今の問題に関して、子どもの受診が増加している背景は、鹿児島市の心療内科の先生

	<p>が新聞によく書いているが、愛着障害、それからゲーム依存にあるんじゃないかと思う。</p> <p>それで子ども同士の触れ合いとかごっこ遊び。子ども同士が触れ合って遊ぶという経験が不足しているということがあるかと思う。</p> <p>だから、取り組んでいると思うが、子どもの問題の場合は子どもだけの治療ではなくて保護者。保護者への教育というのもやっぱり考えていただけたらいいかと思う。</p>
会長	<p>この問題はただ病名をつけて投薬すればいいという話ではなくて、平たく言うと連携になってしまうのかもしれないが、どうやってみんなで解決していくのか、始良市でもできそうなところがあるかもしれないと思いながら聞いていたところ。</p> <p>この点に関してはいかがか。教育の部分とか、2人の委員からどうか。</p>
委員	<p>今、ご指摘頂いたような事例というのが実は増えている。</p> <p>保護者には学校は立ち入れないので、福祉のほうにご協力頂いて、先ほどもあったケース会議とか開いたりして対応しているが、なかなかうまくいかない状況である。</p> <p>スクールソーシャルワーカーを中心に、福祉との連携を深めるように各学校には指導しており、あいぴあとも連携を図っているところだが、なかなかうまくいかない現状である。</p>
委員	<p>保育園等においては、職員が子どもたちとの関わりに不安を持っているところがあったりというのがかなりあって、研修等もそういう中で進めていかなければいけないということがある。</p> <p>市や園内で行っている研修でも取り組んでいくという、やり方をしながら、資質の向上を図っていくということが最大の今の状況だと思っている。</p> <p>そういうことを通じて、地域の子どもたちからしっかりと育てていくということは保育園等でも、頑張っているところである。</p>
委員	<p>始良市には児童養護施設がある。その施設のことは知らないが、私は別の児童養護施設の理事もしており、結構相談活動している。それで家庭でどうしても立ち直らせることができない子どもたちを一時的に入院というのものもあるし、児童養護施設で、集団生活をしてみるとか、親と子どもを離すことで親子関係を見直していくとか、そういうチャンスもあると思う。</p> <p>始良市の施設がどれだけ相談に力を入れているか把握してないが、機会があれば連携してもいいかと思う。</p>
会長	<p>児童養護施設との連携もどうかというところ。</p> <p>委員は子どもさんの居場所というところで日頃から取り組まれていると思うが、いかがか。</p>
委員	<p>我々が地域で取り組むというのは、子どもたちの居場所、という形をつくりながら、そして子ども同士で遊び、それを親御さんたちが見守るという体制を現在とっている。</p> <p>今委員からもあったが、我々は全くそのことについて悩むことがない。</p> <p>なぜかという、地域ぐるみでそのことをやっているの、始良の中でも17校区あるが、ここは独特な動きをしながら、活動をしている。</p> <p>ぜひ、そういう場に、委員の皆さん方も時間があれば来ていただければ、こんなことをしてみんながつながっている、そして、語り合いながらそういうものも払拭されてい</p>

	<p>るといのが、少しは見えるのではないかと思います。</p> <p>そういう場を我々もつくっていければなと思っている。</p> <p>特に、今我々が「あいら未来会議」という、71名の会議の構成を持ちながら、子どものことについても、それから就労、自分たちの仕事のことについても、地域のことについても、全て、月に1回ずつ、そこでみんなが持ち寄りながら解決をしているという状況もあるので、また参考にしていただければよいと思う。</p>
会長	<p>先日市報にも載っていた。すばらしい先駆的な取組だと思う。</p> <p>その他、ご質問ご確認があればどうぞ。</p>
委員	<p>先ほどあった地域生活支援拠点等についての利用者、対象者についての回答があるということで、合わせて、登録制ということになっているので、どれぐらい登録数があるのか。</p> <p>それから、5つの機能があって各分野でいろいろ事業所が登録されるが、その登録をしている事業所はどこがあるのかもあわせて回答頂ければ助かる。</p>
会長	<p>事務局よろしいか。(事務局領く。)</p> <p>お願いします。</p>
9 その他	
	<p>事務局が以下の点について報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追加資料について、委員から提供あり。後ほど委員より説明。 ・会長代理について、会長の指名となっているため、次回1月の協議会までに検討・報告。
委員	<p>長年会長をさせていただいてありがとう。</p> <p>その間、会長代理は委員にさせていただいた。また75歳、後期高齢者になったので、これは交代する時期だと思い、また、私鹿児島市から来ているので、始良市で活躍している人がやっぱ会長になるべきだと思い、会長代理の委員に相談した。</p> <p>委員は始良市だけでなく県下で活躍されている。先ほども自己紹介でも言われたように、きめ細かな相談活動をされているし、ほかの部会との連携もされているので、適任ではないかと思った。</p> <p>その間事務局も、3年間、2年ぐらいでくるくる変わったが、新しく事務局になられた人も非常に有能できちっと資料もつくっていただいて発表もしていただいて大変助かった。</p> <p>また各部会も大変充実して、私も大変教えられることがたくさんあった。この席をかりてお礼を申し上げたい。</p> <p>それから今説明があったお手元の資料、知り合いの県の教育委員会の方から頂いたが、なぜこれを持ってきたかという、牧之原特別支援学校の児童生徒が386人で1番多い。</p> <p>それで、皆さんも新聞でご存じだと思うが、第1が志布志地区に分校なのか、独立した学校なのか知らないが、牧之原に通っている志布志地区の子どもたちをすぐ通わせる。</p> <p>2番目が、大口伊佐地区の子どもたちが出水特別支援学校まで通っているが、ちょっと遠いというのでどうするのか。そして3番目がこの始良市になっているようだ。</p>

県のほうから協力要請があるかもしれないが、加治木特別支援学校の中につくるのがいいのか、もう廃校になった学校をどう活用するのか、その辺は県の教育委員会の仕事だと思うが、牧之原が1番多くて、始良市の子どもが1番遠い、牧之原まで通っているという資料として提出させていただいた。

最後に、私、鹿児島県と鹿児島市の手話言語条例の会長をさせていただいている。

事務局には非常に負担をかけることになるが、もし余裕があれば、ぜひ始良市でも取り組んで頂ければと思う。

幸いに市役所には手話通訳の方がいて、手話通訳で耳の不自由な方の支援をされているので安心だが、この前、鹿児島市内のある支所の手話通訳の方に話を聞いたら、市から送られてくるいろいろな書類を開封しないまま持ってこられる方がいたそうだ。

何で開封しないで持ってきたのか、読んでもさっぱり分からないのでこういう書類を読むこと自体が怖いとおっしゃって、送られてきた書類を分かるように、説明してほしいという要請があった。

皆さんもご存じのように、聴覚障害の人は日本手話というのが母国語である。これは日本語とは全然違う。

その辺をどうしているのかは、相手に応じて、日本手話を使ったり日本語対応手話を使ったり、筆談をしたり、ジェスチャーをしたり、その人に分かる方法で手話通訳をしている。私もびっくりした。

市から送られた書類の理解ができない、そういう人もいることを頭の隅に入れていただいて、対応してほしい。

お礼と報告を兼ねて挨拶をさせていただいた。

10 閉会